

漢法苞徳塾資料	No. 247
区分	疾病論・病因
タイトル	病位論の整理
著者	八木素萌
作成日	1989.09

◎様々な病位名は臨床的に整理する方が良い

★病がどの部位に在ると判断するのかは、病の性質を如何に把えているかと言う問題と並んで、其の病に如何に臨床的に対処すべきかを決定する上で、重要な問題である。

★陰陽・虚実・表裏・寒熱・燥湿などは病の性質を把えているのであり、機能性疾患・器質性疾患・外感病・内傷病・その他病因の把握等もやはり病の性質を把えているのである。

★『傷寒論』の病位論は「三陰三陽」を主とするものであり、『温病論』の病位論は主として「衛・気・榮・血」と「上・中・下の三焦」を区分するものである。

★内外・表裏および半表半裏・臟腑・経絡（十二正経・奇経・大絡・絡脈・経別・筋絡）・経筋・経水・皮部・三陰三陽・五体（皮毛腠理・血脈・肌肉・筋・骨）・陰陽・上下・左右・その他、病位を表現する用語は大変多いので、臨床上便利な様に交通整理を行った方が良い。

★臨床の上では、体質的な問題・内傷と外感の区分・病因の診別、等が必要で大切である。それは治療方針の選択・その方針に従って選定する経と穴は何が適切かの問題・そこに施術する手技は何が適切であるかと言う問題・病程や予後の判断が求められているからである。

★内傷病では、遺伝的な素因（体質素因）・ライフスタイル（食・住・生活リズム・職業を含めた対人関係など）・具体的な発病素因（飲・痰・瘀・労）が問題である。治療的な対応としては、五臓辨証と具体的な発病素因の辨別が問題である。予防的な対応と、治効をより良くする為の養生問題は指示・指導の問題となる。

★外感病では、傷寒論と温病論で対処するものであるから、「三陰三陽・衛気榮血・三焦」を辨証し病因を辨別する事が具体的な治療的対応の問題である。養生の指示や適切な補助的治法の選択の指導と言う問題がある

★共に、

（a）治療的対応

（b）養生節制の指示指導

として区別する方が臨床上適当であろう。

- ★以上によって、診断の結果が反映され治則の指示が判断し易い様に証名が構成されている事が望ましい。病位名の交通整理は、この必要に適う様にする事が便利であろう。
- ★病因（外因・内因・不内外因）、病位（臓・腑・経絡・三陰三陽・衛気栄血・三焦）、虚実寒熱逆順、などが、証名から判断できれば、臨床的には非常に有用であろう。
- ★経脈の変動を把握して、その変動している経脈を適宜に用いる、と言う視点から、臨床的な態度を選択するか？病証判定から治法を決定して、それに基づいて用経用穴および選択すべき手技を決定する、と言う立場をとるか？は重要な問題である。後者の方がより十全であると考える。

◎辨証と病位

- ★五臓辨証は、人身の生理的病理的な表象を、五臓に集約しているから、極めて広義なものである。従ってそれは、
 - イ) 病因を表象する意味
 - ロ) 生理的病理的なものを五行論的に把握する意味
 - ハ) 辨証全体の土台を据える意味を示している。病位論を具体的に治療の手掛かりとして運用する為には、大雑把に過ぎる。
- ★陰陽辨証、虚実辨証、表裏辨証、寒熱辨証、などの所謂『八綱辨証』は、治則の選択の上で有用かつ重要であるが、充分であるとは言えない。やはり、臓腑・経脈・五体の認識と統合されなければ、鍼灸治療の具体的手掛かりを、充分には与えてくれない。
- ★三陰三陽辨証は、経脈との関連では、かなり重なっているが、他面では陰陽の相互関係の消息を主とするので、用経・用穴の為の手掛かりとするには、不充分である。然し、太陽・陽明・少陽・太陰・少陰・厥陰の六経の病症論が基本的に確立されているので、また六経辨証の技術も良く発達しているので、大切である。
- ★衛・気・栄・血・辨証は、いわば、体成分で病の深浅を把握しようとするものである。故にダイレクトには経脈とは結び付かない。衛・気・栄・血が形成される生理的機構と関連経脈を、能動的に把握する必要がある。
- ★三焦辨証は、上焦に手太陰肺経と手厥陰心包経を、中焦に足太陰脾経と足陽明胃経と手陽明大腸経を、下焦に足少陰腎経と足厥陰肝経を、それぞれ配当している。そして、それぞれの基本病症が整理されているが、衛・気・栄・血・辨証とともに『温病』論に基づく概念であるので、傷寒との関係上未解決な面を残している。

また難経の三焦論が「原気の別使」論・「気道」維持論・消化管機能力論の三つの面を持っているが、これとの関連を如何に取り扱うかと云う問題が残っている。

★以上の種々の辨証との関連で、所謂、経脈病症の問題がある。これは、『靈枢』経脈第10に記述されている、是動病・所生病と十五大絡の病症の問題、及び奇経の病症の問題である。これらの経脈病症記述と各種の辨症論の病症記述との間には、オーバーラップしていない部分があり、この点をどの様に観るのかと言う問題なのである。これは論理的に未解決の部分である様に見える。